

第9回 富士山支部勉強会 稲葉俊郎先生に学ぶ「〇〇と統合医療」

東京大学医学部付属病院循環器内科の稲葉俊郎先生をお呼びして、2日間にわたり支部勉強会が行われました。先生は、音楽、絵画などさまざまなジャンルにおいて医療との接点を模索されており、今回は芸術、文化、自然などと統合医療の関係性についてお話頂きました。

古くから心身一如、身土不二という言葉があるように、“心”と“体”は一体であり“土（自然）”のリズムと共鳴するようです。しかし、動物性臓器である“頭”は自然に反してまでも動く性質をもつため、時に頭は、心・体と不調和になりがちです。頭（意識）が外の世界に偏れば、内の世界を抑圧して、身心に症状としてあらわれたり、人間関係にあらわれるようです。逆もまたあり、外と内のバランスをとるのが個々の課題とのことでした。そんな外と内をつなぐ場所にイメージの世界があり、自分の内的イメージを中心にそえて生きていくことは、自分らしく生きていくことに繋がります。医療には本当の心の声を聴き、全体性を回復する役目があり、芸術や道、美の世界に叡智が秘められているようです。ずっと途切れることなく繋がり続けたいのちの歴史の果てに今の自分達がいること、その体には宇宙と生命の歴史がすべてつまっており、そこから学ぶことが問われました。

私たちの社会は、表面にある違いを強調させて互いを分離させていくことよりも、深層にある共通性を発見して、お互いの関係性を結ぶことが求められております。これまでいろんな文化を受け入れてきた日本だからこそそんな社会を実現できると確信されておりました。そして、これからの医療は、病を扱う病院だけではなく、健康を扱う養生所との相補的な関係が大切であり、山本支部長の実践しているような“自然やこの場所のおかげで元気になれるような場”をつくりたいとお話いただきました。

次回は、9月23日に、静岡文化芸術大学の河村洋子先生から、地域包括ケアシステム構築に役立つコミュニケーション促進の秘訣を伺います。地域でケアに携わっている方は必見です。

